

癒道^{ゆみち}

間合いを取る

私たちが生きる都市は、数えきれないほどの人々の営みにより形成されている。

日々移り変わる経済活動、文化、交流、そして歴史の蓄積が重なり合い、都市は時を刻んできた。

さらに、新型コロナウイルスによる自粛期間が終わり、世界との交流が再び活発になり多くの外国人が訪れ、都市のダイナミズムは加速している。

しかし、その変化とともに、都市の余裕はますます奪われ、現代の都市空間は過密性を高め、張り詰めた空気が漂っている。

効率性を優先するあまり

私たちは都市の中で「間」を持つことの価値を見失いかけているのではないだろうか。

人と人、物と物、時間と時間の間に、本来あるべき「間(ま)」が失われつつあるのではないか。私たちが目指すのは、都市に新たな「間」をつくることだ。

物理的な空間としての余白だけではなく、

人々が自然に立ち止まり、休息し、出会い、思考し、心を落ちつかせ、自分自身を見つめ直せるような

「間合い」を生み出す都市のあり方を模索する。

これは、人々の生き方に対する提案でもある。

せわしなく流れる都市の時間に、

ほんの少しの余裕が差し込むことで、

新しい都市の風景が生まれるはずだ。

通り抜けるだけの空間ではなく、

都市の喧騒から少し離れ、

癒道という和の表現で自己を見つめ直せる場所を考えたい。

計画敷地

今回想定する計画敷地は虎ノ門ヒルズなどがある港区新橋とした。

選択理由としては、オフィス街でもあり、多くの商業施設が軒を連ねたいためビジネスの町でもあり、観光地でもあるという二面性を孕んでいるからこそ都市は複雑化され、余裕がない街になっていると考えたからだ。

和とは

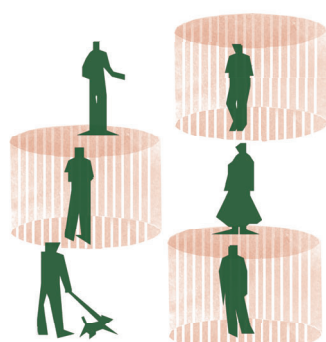
古来より、日本人は神社などをはじめとした何も無い空間を重んじてきた。そこで、我々は和何もない空間、余白と定義した。

この和の心を取り戻せば自ずと心に余裕が生まれえと考えた。

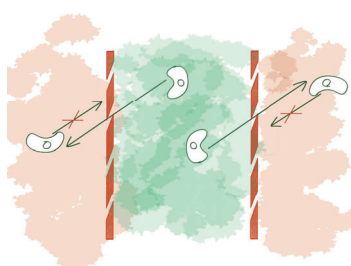
その一、
自分の間合いを作る



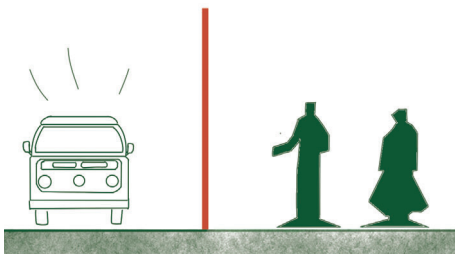
その二、
相手がいるときの間合い
存在を感じる間合い



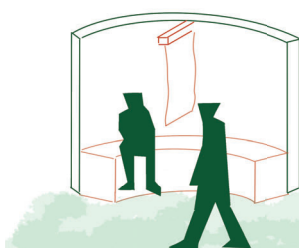
その三、
通行者からの視線は届かない
角度の付いた柱で阻止



その四、
せわしなない空間とは壁で隔てる



その五、
座って一息つく



その六、
うつすら人の気配がする

